

「第2回 豊橋市緑の基本計画（仮称）検討委員会」議事録

○日時 令和元年12月6日（金） 10時00分～12時10分

○場所 豊橋市役所 東館12階 123会議室

○出席委員 別紙「出席者名簿」参照

○事務局 7名

〔会議資料〕

- ◆次第
- ◆【資料1】現行計画における施策の進捗状況（H30年度時点における達成状況）
- ◆【資料2】市民アンケート調査（結果速報）
- ◆【資料3】第1回市民ワークショップ（結果速報）
- ◆【資料4】次期計画の構成案と本日の検討事項
- ◆【資料5】豊橋市の概要と緑の現況と課題
- ◆【資料6】計画改訂の方向性（案）

1. 現行計画の再評価について【資料 1】

- ・事務局より、第 1 回検討委員会資料からの施策の進捗状況の変更箇所の説明が資料 1 に基づいて行われた。

〔質疑〕

なし

2. 市民アンケートと市民ワークショップについて（結果速報）【資料 2、3】

- ・事務局より、市民アンケートと第 1 回市民ワークショップの結果速報について資料 2、資料 3 に基づいて行われた。

〔質疑〕

（委員長）

- ・市民ワークショップの参加者は何名か教えてほしい。

（事務局）

- ・10 名である。

（委員）

- ・10 名はもともと想定した人数だったのか。また、今後、緑に関わりのある人の声を聞く予定があるか教えてほしい。

（事務局）

- ・当初は 20 名程度を想定していた。報道発表を行い、街路樹愛護会への参加呼びかけなどを行った。活動に熱心な方は多いが、ワークショップまでは参加いただけなかった。アンケートはこの後、企業アンケートも実施する予定である。ヒアリングの方が深い話を聞けるかと思うので、今後聞く機会を設けたいと思う。

（オブザーバー）

- ・A 班、B 班の属性を分けた狙いを教えてほしい。ワークショップの結果を計画に盛り込まれるスケジュールになっていて、検討委員会でこれを踏まえて議論されることが想定されているのか知りたい。

（事務局）

- ・属性で分けた理由は、話し合いのレベルが合い、誰もが発言しやすいよう配慮したため。第 2 回は高校生も参加して 3 グループで実施する。第 3 回目が 1 月なので、良いアイデアに発展したら検討委員会でも報告し、計画に反映していきたい。

（副委員長）

- ・感想となるが、アンケート回答者の半分以上が 50 代であり、女性の比率が高いということで、若い方や男性が忙しいのだと感じた。公園の中心利用者は中高年の方や、女性が多いと思われる。公園は、孫を連れていく中高年と小さいお子さんが快適に使えることが重要である。若い人は通勤の時に目にする緑が身近な緑として重要だと思う。

（委員）

- ・副委員長と同じ意見である。

(委員)

- 私たちは公園を使う側である。岩田運動公園、グリーンスポーツセンター等は、閑散としていてもったいないと感じる。あるイベント時に公園に来た人の数を数えてみたが、僅か30人くらいであった。運動公園は、もっと特徴を出したほうがよいと思う。千葉の船橋市にある行田公園は園路沿いに健康遊具が点在しているので、歩きながら体を動かせる場として有名である。できることが分かると、行こうと思う。予算と合うかどうかという問題はあるが、公園ごとの特徴が必要である。

(副委員長)

- 大きな公園でイベントがあると若い人も来る。イベントがあることをもっと周知する必要がある。広報も見ない人がいるので、他に広く周知する方法を考える必要がある。

(委員長)

- 市は公園に関する広報を特別に持っていないのか。

(事務局)

- その都度広報とよはしや市のホームページに情報を掲載するが、関心がある人しか見えていないという現状はあると思う。

(委員)

- 岩屋緑地では案内の看板などあっても、見えにくく分からないことがある。広報とよはしは、ボランティアの活動なども紙面にわずかに載っているだけで、参加者に伝わらないことがある。

(委員)

- 私は長く豊橋に住んでいるが、岩屋緑地にパターゴルフがあることも最近知った。それくらい看板が目立たない。穂の国・豊橋ハーフマラソンは若い人も参加するので、こういったイベントのスタート地点などに公園を利用していくことも重要である。

(委員)

- 岩屋緑地とグリーンスポーツセンター、視聴覚センターでは、公園緑地課と他部署の連携が取れていない。連絡協議会等を設けて情報共有してはどうか。

(委員長)

- 市民アンケートでトイレが汚いという回答も突出して多いため、清掃等の維持管理も課題である。

(委員)

- 広報にFM 豊橋を活用してはどうか。大きなイベントは毎年時期で分かるため、個人的には大きなものより市民が地元で親しむ小さな取組を広報したらいいのではないかと思う。

(委員長)

- 色々な媒体を利用することが重要である。

(委員)

- 学生は主に SNS で情報を得る。写真も重要で、公園での取組や景色などを視覚的に出すと行きたいと思う。馴染みがないイベントは情報が入ってこないので、SNS の活用もできると良いのではないか。

(委員)

- ・広報広聴課の「クラストコ」は写真もきれいで、若い人に見られている。広報とよはしは見る世代が分かれるので、こういったSNSの活用を検討してはどうか。

(委員)

- ・富山県の事例だが、誰も行かない場所だった公園にカフェとフレンチのお店が入り、雑誌で取り上げられたら大勢の人が集まる場となった。出店にお金がかかるかもしれないが、カフェなどつくって活性化させる手法も検討してはどうか。

(委員)

- ・自分も利用する幸公園は結構にぎわっている。普段使っている公園利用者に具体的に何が魅力なのかといったアンケートが取れると良い。

(委員長)

- ・次回でも良いが、ワークショップで A 班、B 班がお互いの意見をどう感じたか意見が出ていれば教えてもらいたい。また、アンケートのこれからの公園に求められる機能について、カフェの利用や大人向け健康遊具のある公園のニーズが増えたのは、市としてどのように捉えているか。

(事務局)

- ・公園の利用が時代と共に変わってきているので、これに対応していく必要がある。

(オブザーバー)

- ・アンケートの回答者属性と実際の公園利用者の属性とが異なるため、アンケートの結果のみを参考とすると誤った方針となる恐れがある。色々な方法で市民意見を聞き取る必要があるのではないか。

(委員)

- ・公園は年齢や性別様々な人が利用している。アンケートは、現場で取ったらどうか。

(委員長)

- ・現地で調査をする場合、曜日や時間帯、季節によっても属性が違うので、気を付けてほしい。

(副委員長)

- ・近所のちびっこ広場では小学生など子どもが利用しているのを見る。アンケートでは対象外だが、10代の意見を聴くとまた違うのではないか。

(委員)

- ・希望であるがユーザーとの対話を仕掛けるというのをできるといい。今は季節が悪いが、ゆくゆくは公園に行って声を聞いたり、公園でワークショップなどできると良い。

3. 次期計画の構成(案)と本日の検討事項【資料4】

- ・事務局より、次期計画の構成(案)と本日の資料との関係についての説明が資料4に基づいて行われた。

〔質疑〕

(副委員長)

- ・利用の促進等の新しい側面が出てきているので、4章の施策展開がしっかり書き込ま

れる必要がある。

(委員長)

- ・第2章にみどりの概要とあるが、現況と概況と言葉が混在しているので、混乱しないように合わせたほうがよい。

4. 緑の現況と課題について【資料5】

- ・事務局より、緑被率や緑視率、緑化の状況や市民ボランティア活動の推移等についての説明が資料5に基づいて行われた。

[質疑]

(委員)

- ・資料で(市街地の)緑被率は低いと記載があり、市民アンケートでは商業地の緑の評価が低いという認識がある。市としては、緑被率と緑視率のどちらを増加させたいのか知りたい。

(事務局)

- ・理想は両方であるが、中心市街地では街路樹に集まるムクドリの問題もあるので、高木の植栽が難しい現状である。このような現実を踏まえるとプランターなどにより、緑視率を上げていくことが大切と考えている。

(副委員長)

- ・街中で緑被率を上げるのは難しいので緑視率を上げるという考え方は良いと思う。壁面緑化、屋上緑化などの支援が進められると良い。あいつピアで屋上緑化や壁面緑化をしているが、その後の生育状況はどうか教えてほしい。

(事務局)

- ・あいつピアの状況は把握できていない。緑のカーテンを実施した学校で、教室が暗くなったという弊害があるという課題は上がっている。

(委員)

- ・近年は、ベランダが壁面緑化されており、管理は、管理会社が行うという建築物も出てきている。こういった施設の建設が進めば緑視率が上がるのではないかと。

(副委員長)

- ・東京では屋上ではちみつを作っている。こういった面白い取組ができると良い。

(事務局)

- ・財政の問題も踏まえて、こういった方向性が良いか、地域ごとに考える必要があるなどといった意見をいただくと参考になる。

(委員長)

- ・平面的な緑化より立体の緑化ということで、外壁を緑化してはどうか。先進事例を集めてみるのも良い。

(副委員長)

- ・個人の庭は生垣を植えると草が目立たなくなる。緑への理解を喚起する施策が必要と考える。落ち葉を敵と思わない。市民がそう思ってもらえると良い。

(委員)

- ・グランドゴルフで各公園を使うが、朝必ず落ち葉清掃をしてプレーする。花壇もみどりの協会から花をもらって植えるが綺麗な花が2、3なくなる事がある。こういったことがあちらこちらで起きている。

(副委員長)

- ・そういったことは、他の町でも起きているようだ。

(委員)

- ・自分の地域でも花を持っていく人がいる。緑を守るのはいいが、住民の心の問題もある。ビールの空きビンも平気で田畑に捨てる。良い緑をつくっても守れないことの方が問題である。

(委員)

- ・岩屋緑地ではボランティアが清掃しているため、子どもたちがゴミ拾いにきてもゴミがないと言っている。自分たちがゴミを拾うと子供たちも捨ってくる。ボランティア活動のあるところはゴミが散乱していない。つまり、啓蒙活動が必要であるということ。自分たちで動けるような仕組みがあると良い。

(委員)

- ・花を盗む行為については、防犯カメラの設置で空き巣が減ったというので、そういうものを活用するのも手である。

(オブザーバー)

- ・豊橋市は都市公園が400もある。市民協働も色々な制度で取り組まれている。街中の緑が少ないとは言え、資料の6p、7pから緑化に取り組んでいることも分かり、評価できる。現況と課題については、現況が良く分かったが、課題が分かりにくいと感じた。緑視率、緑被率のどちらを目標にするかということは、総合計画や都市計画マスタープランなどの上位計画、関連計画とも整合を図るべきである。今回は施策だが、課題や市の上位計画の考え方も整理しないとやるべきことが見えないのではないか。それらを踏まえて、委員から意見のあった利用の促進、落ち葉、広報といった課題を整理していただきたい。
- ・確認したい事項が3つある。1つ目は3pの左下に第何次緑化計画と示してあるのはどういった内容の計画か教えていただきたい。2つ目は10pの緑被率の推移について、市街化区域の緑被率が5.5%下がっている理由を教えていただきたい。3つ目は12pのグラフで示された整備費、維持管理費の推移だが、平成28年から急に大きくなっているがその理由を教えていただきたい。

(事務局)

- ・1つ目の緑化計画は、昭和39年の戦災復興の流れで始まったものである。当初は緑化する目標値を定めていたが、現在は実績を記録するものとなっている。2つ目の緑被率の現況については、分析途中のため後日回答する。3つ目の維持管理費の推移は、平成28年から「スポーツのまちづくり」課所管のスポーツ施設の管理費も入れることになったため上昇した。

(委員長)

- ・豊橋市は緑被率が高いため、市として緑被率を6割維持するという方針であれば、そ

れでも問題はないと考える。

(委員)

- 中心市街地については、一番中心となる駅前大通は県が整備するので、市が行うよりも方針が見えないところがある。個人的には街路樹は良いのだが、歩道の花壇は枯れてなくなっているところや土のままのところが多いと感じている。今後、市民協働で花を飾る仕組みを、県と市で協力して作っていただけると良い。広小路通りは住む人が減っているし、駅前には銀行などの法人が主でありこれらを踏まえて進めていく必要がある。

(委員)

- 14pでボランティアの7割以上が60歳以上とあるが、就職活動でボランティア活動をPRしている人が多かった。高校でボランティア部があるところもある。こういった学生に働きかけていくとよいのではないか。

(副委員長)

- 今日の議論に出ていない生態系の保全だが、街中の公園に生態系をつくるのは難しい。一方、弓張山地などの東側に緑地があるし、貴重な自然もあるので、こういったものの保護や保全についても記載は必要ではないか。

(委員)

- 豊橋市は国有林が多いが、森林管理署(旧:営林署)頼みにしてはいけない。昔は学校林などもあり、市民が森林管理にも関わっていた。葦毛湿原も、水は国有林から来ている。湿原だけを保全するのではなく森林にも目を向けることは重要である。

(副委員長)

- 環境基本計画もあるが、緑の範囲でもあるので、公園緑地課としての記載ができるとう良い。

(委員長)

- 森林政策との関係もあるので、調整して示してほしい。

(委員)

- 立地適正化計画の話があるが、もう少し、緑をどうしていくか示してあるとう良い。例えば、まちなか広場の取組など、載せてない理由があるのか。また、奥山委員が言われた若い世代を巻き込むような事例が豊橋であれば教えてほしい。

(事務局)

- 8pにまちなか広場の記載があるが、具体的な内容は資料として掲載していなかった。若者を巻き込む取組については、緑の基本計画も総合計画も若い世代を取り込むためワークショップを行っている。市民協働推進課でも若い世代の声を入れているので、こういった取組も踏まえて進めたい。

(委員)

- 緑の手入れに市民を巻き込むのはなかなか難しい。高校のボランティア部もあるので、こういったところから参加者を探すのも良い。

5. 計画改訂の方向性(案)について【資料6】

- 事務局より、大きく3つの方向性を示す改訂の方向性(案)についての説明が資料6

に基づいて行われた。

〔質疑〕

(委員長)

- 方向性なので、これまでの議論と結びつけていく必要がある。

(委員)

- 今日の意見をどう方向性に入れ込むか気になる。1つ目、協働体制は入っているようにも読めるが、今日の話では地域での促進役や調整役となる緑化マネージャーのような存在がいないと、難しいと感じた。ボランティアは増えているという実態があるのであれば、今後は、マネージャーが必要というのをこの委員会で議論したい。
- ボランティアだが、花が盗まれる問題は緑化でなくモラルの問題である。そうであれば、緑化マネージャーはモラルについても関心が高い人が良いのではないかとか、あるいは事業者に寄付を募れる営業みたいな人がいいのか、学生に声をかけるのが得意な人がいいのかといった議論ができるとうい。
- 2つ目は、緑をどうするかだが、緑被率、緑視率のいずれかというのは緑の専門的な見地から方針を示してほしい。3点目だが、広報活動は頑張らないといけない。SNSでも何でも市民に働きかけることが重要である。これらを反映させてまとめる必要がある。

(委員長)

- 方向性の1つ目・2つ目が市主体、3つ目は市民活動である。これをつなぐ調整役として、暮らしとみどりのコーディネーターのようなものが必要であると感じた。

(委員)

- その名称は適切で良い。

(委員)

- 行政と市民のギャップを埋めるボランティアというのは確かに重要である。

(委員)

- ボランティアが増加しているというのは本当か、疑念が残る。

(事務局)

- 資料5の14pに示した市民ボランティアの活動団体数や花交流フェアの来場者など踏まえて増えていると記載している。

(委員長)

- 市民ボランティアの増加を目指しているというような記載がよいのではないかと。コーディネーターの必要性については、追記してほしい。

(委員)

- 専門の業者に維持管理を委託するだけでなく、例えば有償ボランティアでも、通常の入札よりコストを抑えることができ、かつ市民が楽しんで参加できているという形ができるのではないかと。近年は銀行や証券会社もCSR活動として熱心に清掃など取り組んでいるが、こういった取組を促進する際に、市が間に入ってくると我々も動きやすい。

(委員)

- 「環境保全や農への関心低下」という記載についてだが、実際には農業をやりたい人

は多いが、農業では食べていけないとか、後継者がいないという問題が現実にはあり、農地が減っている。農家にとって経営を継続することは切実な問題であるため、「関心低下」というのは表現を変えてほしい。

(委員)

- 環境保全と農の結び付けは無理があるのではないか。ここは、地球温暖化やヒートアイランドへの関心の高まりがあると記載するのはどうか。

(副委員長)

- 緑のネットワークという言葉は長年使われているが、都市の公園をネットワークに組み込むのは無理があると感じている。弓張山地などを想定して書かれているとは思いますが、豊橋だけでネットワークをつくろうと無理にしなくて良いのではないか。

(委員)

- 豊橋は山や川も豊かでももとの環境が良いので、そういったところを重視しないでよいと感じる。

(委員長)

- 今日の議論を受けて事務局で修正などを進めていく。今日発言できなかったところがあれば、1週間以内に事務局へ連絡していただきたい。

6. その他

- 事務局より、第3回検討委員会の開催日を令和2年5月に開くこと、日程については決まり次第連絡することが案内された。

7. 閉会

- 委員長より、閉会の挨拶が行われた。

以上